

魚沼基幹病院 看護補助者 上重 有希 様

私は魚沼基幹病院で看護補助として
約8年間勤務しました「上重有希」と申します。
現在は介護福祉士として勤めています。



Q：看護補助者の仕事を始めたきっかけを教えてください

A：この仕事を始めたきっかけは、当時**子育て中**だったことです。
6時間勤務で土日祝日が休みという、
家庭と仕事を両立しやすい環境に魅力を感じて働き始めました。

Q：看護補助者とは、病院の中でどのような役割を担っているのでしょうか？

A：一言で言えば、看護師と協力しながら**患者さんの入院生活を支える仕事**です。
病院には医師や看護師、リハビリスタッフなど多くの職種がありますが、私たちは**患者さんの一番身近な存在**として日常生活を支援しています。
患者さんが安心して入院生活を送れるよう支える、非常に重要な役割を担っています。

Q：具体的な仕事内容について詳しく教えてください

A：配属される部署によって業務は様々ですが、私が最初に配属されたNICU（新生児集中治療室）や産婦人科病棟では、保育器や新生児ベッドの拭き掃除、沐浴室の掃除、タオル補充などを行っていました。また、全般的な**生活援助**として、以下のような業務も担当します。

- ◆ 食事の配膳や、一人で食べられない方への**食事介助**
- ◆ 排泄介助や入浴介助、車いす移動の介助
- ◆ 検査やリハビリへの付き添い
- ◆ 院内コンビニでの**買い物代行**や付き添い
- ◆ 手術室へのベッド搬送、ベッドメイキング、病室の整理整頓や物品補充



Q：お仕事の中で、特にやりがいを感じたエピソードはありますか？

A：産婦人科病棟で、帝王切開を控えて不安を抱えていた患者さんに寄り添った時のことが忘れられません。

私自身も帝王切開の経験があったため、当時の不安や経験をお話ししたところ、患者さんは涙を流して「話を聴いてもらえて安心した」と打ち明けてくださいました。

数年後、その方が再び入院された際にも私のことを覚えていてくださり、「あの時は救われました」と言っていただけは本当に嬉しかったです。

Q：その経験を通して、看護補助者の仕事についてどのような気づきがありましたか？

A：看護補助者の仕事は、単に身の回りのお世話をするだけではないと実感しました。

患者さんの気持ちに寄り添い、精神的な支えになることも大切な役割です。

自分自身の経験が誰かの力になることもあり、それがこの仕事の大きなやりがいにつながっています。

Q：最後に、看護補助者の仕事に興味を持っている方へメッセージをお願いします。

A：看護補助者は、患者さんに最も近い立場で支援を行う、とてもやりがいのある仕事です。

患者さんの笑顔や「ありがとう」という言葉を励みに、私たちは働いています。

このお話を通して、少しでも看護補助者という仕事に興味を持っていただけたら嬉しいです。

